

May 2018
Vol.216

発行 | 京都芸術センター
2018年4月20日

05

素謡の会 「うたいろあはせ」

TOPIC 01

みみききプログラム #2

能一曲を所作や囃子を伴わず、座した状態で謡のみで表現する上演形式「素謡(すうたい)」を軸に、能楽の魅力を紹介する「素謡の会」。昨年度からは「明倫レコード倶楽部」「Kyo×Kyo Today」と共に、「みみきき(耳利き)プログラム」として開催しています。



能楽は面、装束、囃子、舞、所作など様々な要素が織り込まれ、奥行きある舞台を成立させている総合芸術です。「素謡の会」ではなかでも謡に注目し、2005年から様々なテーマを設けて各回一演目を抽出、能楽の魅力を広く紹介してきました。今年度は少し趣向を変えて、素謡と、舞台芸術に関する様々な要素を取り合わせることで、能楽と文化の豊かな広がりを見出すプログラムを展開していきます。

第1回は色彩研究者の三木学氏を迎え、科学的な画像解析を基に、能装束の色彩に見られる、日本人の感覚や価値観を分析します。さらに装束の色、詞章に詠み込まれた色、謡の音色といった表現の重なりを意識することで、能楽に秘められた色の世界を読み解いていきます。

第2回では、異なるシテ方の二流派を見比べます。繊細優美な芸風で知られる観世流と、自在な謡と伸びやかな舞が特徴の金春流ですが、実際にその違いを体感する機会は少ないのでは? それぞれの魅力をたっぷり感じられる演目を披露していただきます。特徴

の異なる謡に併せる大鼓方の技にも注目です。

第3回は劇団「地点」とのコラボレーション。地点は俳優たちと演出家の共同作業によってテキストを再構築、その過程で醸成された声と身体表現で古典戯曲を上演し、国際的な評価を得ています。能楽の謡と現代演劇の声を並べて聞く、かつてない機会になることでしょう。

また9月には、京都芸術センターを飛び出し名跡を訪れる「謡曲ひとめぐり」も開催します。場の風景や歴史と謡が響き合う、満席必至の企画です。今回は後白河法皇ゆかりの寺院、長講堂にて『弘原』を取り上げます。

色合いも風情も違う四つの景色。声と声が重なり、溶け合い、響きが生まれるように、謡を通して様々な色のアンサンブルが聞こえるはず。目でも耳でも楽しんでいただける、京都芸術センターならではの能楽プログラムです!

各回のバリエーションはさることながら、謡にあわせて四季折々の雰囲気もお楽しみいただけるのでは? 行楽の予定がたりにぜひ年間席札を!
谷竜一(アートコーディネーター)

みみききプログラム #2 素謡の会「うたいろあはせ」

- 第1回**
日時: 5月13日(日)受付13:00 開場13:30 開演14:00
演目: 杜若
出演: 吉浪壽晃、田茂井廣道、樹下千慧
ゲスト: 三木学(色彩研究者)
- 第2回**
日時: 12月18日(火)受付18:00 開場18:30 開演19:00
演目: <観世流>経正 <金春流>花月
出演: 林宗一郎、田茂井廣道、高橋忍、山井綱雄、白坂信行
- 第3回**
日時: 2019年3月28日(木) 受付18:00 開場18:30 開演19:00
演目: <素謡>車僧
<地点>秋元松代『常陸坊海尊』などより
出演: 浦田保親、大江信行、田茂井廣道、深野貴彦
ゲスト: 地点
- 各回共通
会場: 大広間(待合: 講堂)
料金: 前売1,500円/当日1,800円

関連企画「謡曲ひとめぐり」
日時: 9月15日(土)受付13:00 開場13:30 開演14:00
料金: 前売1,500円/当日1,800円
会場: 長講堂(下京区富小路六条)
演目: 弘原
出演: 河村晴道、味方玄、田茂井廣道、曾和鼓堂

素謡の会「うたいろあはせ」年間席札
日時: 5月13日(日)、12月18日(火)、2019年3月28日(木)
料金: 3,800円(全3回分)限定50枚
※お一人様2枚まで。完売次第終了。
※9月15日(土)の[謡曲ひとめぐり]の入場券は、別途お求めください。

みみききプログラム #2
#1 明倫レコード倶楽部
4月21日(土)、9月1日(土)、12月1日(土)、2019年3月2日(土)
#2 素謡の会
5月13日(日)、9月15日(土)[謡曲ひとめぐり]、12月18日(火)、2019年3月28日(木)
#3 Kyo×Kyo Today
2019年2月1日(金)

EVENTS

▼ **2017年12月** 開催予定のイベント

▼ **2017年11月** 開催予定のイベント

▼ **2017年10月** 開催予定のイベント

▼ **2017年9月** 開催予定のイベント

美術

▼ **2017年12月** 開催予定のイベント

『**ニューミュージーション-変・進・深化**』展
関西の芸大・美大を卒業/在籍し、精力的に活躍する若手アーティストによるグループ展。
会期：4月14日(土)－5月27日(日)
10:00－20:00
※会期中無休・入場無料
会場：ギャラリー北・南
出展：加藤巧、西條茜、高畑紗依

【関連企画】

ワークショップ
「**けしきの上をえんびつで泳いでみる**」
普段見ている景色をなぞってみて、少し違った風景を見つけます。
日時：5月12日(土)14:00－17:00
会場：制作室1
講師：高畑紗依
料金：無料
定員：10名(先着順/要事前申込)

クロージング・イベント
「**ルッベルトの頭の中身**」
西條茜の出展作の一部である巨大な脳に立って立体作品の解体を試みます。
日時：5月27日(日)17:00
会場：ギャラリー北
※入場無料、事前申込不要

『**Tips**』展
Co-program カテゴリーB(展覧会事業)採択企画。インスタレーションにおけるささやかな技術「Tips」に注目したグループ展。
会期：6月1日(金)－7月16日(月・祝)
10:00－20:00
※施設点検のため開廊時間が一部変更になる場合があります
※入場無料
会場：ギャラリー北・南
出展：池田剛介、熊谷卓哉、小松千倫、三野新、宮坂直樹
主催：宮坂直樹、京都芸術センター

【関連企画】

アーティスト・トーク
日時：6月2日(土)15:00-17:00
会場：ミーティングルーム2
ゲスト：長谷川新(インディペンデント・キュレーター)

レクチャー
日時：6月23日(土)16:00-18:00
会場：ミーティングルーム2
講師：高濱史子(建築家)

※入場無料・事前申込不要

伝統

KAC Performing Arts Program 2017 / Traditional Performance
継ぐこと・伝えること60
「**沓占式プロジェクト**」振り返りミーティング
3月4日(日)に実施した公演の反響や課題を共有・考察し、プロジェクト全体を振り返るミーティングを公開で行います。
日時：4月27日(金)11:00-13:00
会場：ミーティングルーム2
※入場無料・要事前申込・入退場自由
※Topic02(P4)もご覧ください

みみききプログラム**🎧**
#2 素謡の会「うたいろあはせ」第1回
日時：5月13日(日)
受付13:00 開場13:30 開演14:00
会場：大広間(待合：講堂)
演目：杜若
出演：吉浪壽晃、田茂井廣道、樹下千慧
ゲスト：三木学(色彩研究者)
料金：前売1,500円/当日1,800円
年間席札3,800円(関連企画「謡曲ひとめぐり」を除く)

みみききプログラム**🎧**
🎧
京都芸術センター窓口でのチケット購入時、または公演当日の受付にてご精算時に、他の「みみききプログラム」の半券をお持ちください。200円割引いたします。1回のみ有効。
※Topic01(P1)もご覧ください

京都いけばなプレゼンテーション2018
〈すごいゾ!いけばな〉
華道34流派の華道家による展覧会のほか、会場内のイベントスペースでは会期中、多彩なプログラムが盛りだくさん。トーク、デモンストレーション、レクチャーなど様々なプログラムを実施します。詳細はウェブサイトをご覧ください。

展覧会
「光」、「彩」、「風」をテーマとした3会場に、多彩な作品が揃います。
日時：6月2日(土)10:00－20:00
6月3日(日)10:00－18:00
会場：講堂、大広間、フリースペースほか
※入場無料・事前申込不要

ワークショップ〈いけばなの日、お稽古はじめ〉
子どもから大人まで参加できる、いけばな体験。

A いけばな体験
剣山と水盤を使う、基本的な作品づくり。
A-1 日時：6月2日(土)10:30-11:30
A-2 日時：6月2日(土)14:00-15:00
A-3 日時：6月3日(日)10:30-11:30
料金：1,000円(花材代込。使用した花材はお持ち帰りいただけます)
対象：小学生以上(3年生以下は要保護者同伴)
定員：20名(先着順/要事前申込)
B いけばな体験：一輪挿し・コップ
一輪挿しやコップに数本で生けてみよう。
日時：6月2日(土)18:00-19:00
料金：無料
定員：30名(先着順。当日17:30から会場で受付)
※年齢制限なし(小学校3年生以下は要保護者同伴)
C いけばな体験：投げ入れ花
壺や花瓶などにそのまま花や枝を入れる「投げ入れ花」。ちょっと豪華な作品づくりに挑戦!
日時：6月3日(日)14:00-15:00
料金：3,000円(花材代込。使用した花材はお持ち帰りいただけます)
対象：高校生以上
定員：16名(先着順/要事前申込)

主催：京都市、公益財団法人京都市芸術文化協会

音楽

みみききプログラム**🎧**
#1 明倫レコード倶楽部「其ノ65」
喜怒哀楽のレコードの旅「喜の会」
日時：4月21日(土) 15:00-17:00
4月号に掲載した開演時刻に誤りがございました。訂正し、お詫び申し上げます。
会場：講堂
講師：いしいしんじ(作家)
曲目：マディ・ウォーターズ「ローリン・ストーン」、ジョアン・ジルベルト「思いあふれて」、ハリー・ペラフォンテ「バナナポート」ほか
料金：500円(1ドリンク付)

みみききプログラム半券割引：
京都芸術センター窓口でのチケット購入時、または公演当日の受付にてご精算時に、他の「みみききプログラム」の半券をお持ちください。200円割引いたします。1回のみ有効。
※明倫レコード倶楽部の半券で、次回以降の明倫レコード倶楽部のチケットを割引する場合は、100円引きになります。

ダンス

京都国際ダンスワークショップ
フェスティバル2018
国際的に活躍する振付家、ダンサーらを講師として招聘。ビギナーからプロのダンサーまで様々なレベルのクラスを設けたワークショップ。受講者以外にもオープンなプログラムを開催します。

日時：4月20日(金)－5月6日(日)
会場：講堂、フリースペースほか
講師：アビゲイル・イエーガー、フランチェスコ・スカベッタ、カティア・ムストネン、坂本公成、森裕子、長内裕美、チョン・ヨンドゥ、マルセロ・エヴェリン、川口隆夫、森井淳、秋津さやか
※ワークショップ各クラスの詳細と日程、料金については、ウェブサイトをご覧ください

【**トーク**】
マルセロ・エヴェリン
日時：5月1日(火)12:45-13:30
会場：大広間
※日英通訳あり
※入場無料・事前申込不要

【**ショーイング**】
チョン・ヨンドゥ
日時：5月6日(日)21:00－21:30
会場：フリースペース
出演：受講者
振付：チョン・ヨンドゥ
※入場無料・事前申込不要

ライブラリー

「**あの人の、おすすめ本**」
京都芸術センターに縁のあるあの人、この人からのおすすめ本をコメントとともにご紹介します。今回は前京都芸術センター館長の富永茂樹氏です。
日時：4月1日(日)－6月28日(木)10:00－20:00
会場：図書室
※4月26日－28日、5月31日は休室

明倫ワークショップ

京都芸術センター制作室で創作活動を行うアーティストによるワークショップ。(参加無料)

BRDG「じかに絵をかこう
－TIME PAINTING 光のワークショップ－
OHPという特別なプロジェクターとインクやオイルなどを使って、壁一面に映し出される大きな「光の絵」を描いてみよう!その場所・その時間にしかないコト・モノに触れ、カラフルで特別なひと時を過ごしましょう。
日時：5月6日(日)10:30－12:30
会場：制作室 8
定員：12名
対象：小学1年生から4年生
※汚れてもよい服装でお越しください

空降る飴玉社
「**演劇の衣裳・小道具の基礎を学ぶ**」
公演期間を想定したスケジュール立てや、作品を想定した衣裳・小道具のデザイン案を作ります。お気軽にご参加ください!
日時：5月19日(土)11:00－13:00
会場：制作室8
定員：10名
対象：演劇の衣裳・小道具に興味がある方
持物：筆記用具、色鉛筆など

KACセレクション

「**Blind pieceプロジェクト**」
秋津さやかによる、ダンサーと観客との身体的な接触やコミュニケーションを通して、観客を巻き込む参加型公演。今回はノスタルジックな会場で、思い出の中を旅するように上演します。

ムーブメントリサーチワークショップ
即興のエクササイズや実験を紹介。パフォーマンス経験者が対象。
日時：5月8日(火)18:00－21:00
会場：講堂
講師：秋津さやか
料金：1,000円

パフォーマンス
日時：5月10日(木)18:30/20:00★
11日(金)18:30★/20:00
★同時通訳有
会場：ミーティングルーム2
構想・振付：秋津さやか
振付・出演：合田有紀、中間アヤカ、西岡樹里、野村香子、山本和馬
※各回出演者が異なります
料金：一般予約1,000円/当日1,500円
定員：各回15名

主催・予約・問合せ：SAYAKA. Co
E-mail：blindpiece2@gmail.com
WEB：https://blindpiece2.wixsite.com

…1[アマリイチ]
『**Punk・tuate**[**パンク・チュエイト**]』
斎藤綾子、益田さちによるユニット…1[アマリイチ]による新作ダンス公演。
日時：5月18日(金)17:00/20:00
5月19日(土)14:00/17:00
会場：ミーティングルーム2
料金：一般前売1,500円/当日1,800円
学生前売1,000円/当日1,300円
定員：35名
主催・問合せ：…1[アマリイチ]
TEL：090-9250-7644
E-mail：amari.1@gmail.com

N///**K**『**風と毛穴 器官と音**』**🎧**
ダンスカンパニーN///K初の京都公演。
毛穴/皮膚を観客の窓口として、猛烈に生きる身体部位の声と音を空間に描く。
日時：6月9日(土)15:00/19:00
10日(日)14:00
会場：フリースペース
出演：奥野美和、小山衣美、鈴木春香、ながやこうた、松尾望
料金：一般前売2,800円/当日3,000円
学生前売2,300円/当日2,500円

主催：京都市

TICKETS チケット販売

祝・第250回記念 市民狂言会
日時：6月8日(金)開場18:30 開演19:00
会場：京都観世会館(左京区)
演目：三番三、福の神、飛越、釣針
出演：茂山千作、七五三、千三郎、千五郎、宗彦、茂、逸平、童司、忠三郎 ほか
料金：前売2,500円/当日3,000円
チケット取扱：京都芸術センター、大丸京都店、高島屋京都店、チケットぴあ(Pコード：484-648)
※年間席札(限定100枚)、団体券2,200円(20名以上)は京都芸術センターにて取扱
主催：京都市

※その他のチケット窓口取扱公演：主催事業および🎧印の共催事業・制作支援事業

OPEN CALL 募集

・広報協力
・アートコーディネーターによるサポート
応募受付期間：4月1日(日)－6月30日(土)(必着)
※Topic04(P4)もご覧ください

トラディショナル・シアター・トレーニング(T.T.T.)2018 受講生募集
T.T.T.は、舞台芸術に携わる方を対象とした3週間の伝統芸能トレーニングです。期間：7月18日(水)－8月10日(金)
応募条件：演劇・ダンスなど、舞台芸術に関わる表現活動もしくは研究活動を行っている方。原則として、オリエンテーションから発表会までのすべてのスケジュールに参加できる方。伝統芸能を積極的に学ぶ意欲のある方。国籍・年齢・性別は不問
定員：24名(能・狂言・日本舞踊 各コース8名程度)
受講料：一般90,000円/学生85,000円/リピーター割引60,000円
締切：4月30日(月・祝)(必着)
※プログラムディレクターによる選考後、5月末までに結果を通知

アーティスト・イン・レジデンスプログラム2019ビジュアル・アーツ部門募集
京都芸術センターで滞在制作を行うアーティスト・イン・レジデンスプログラム。2019年度はビジュアル・アーツ分野から募集します。
滞在期間：2019年4月1日(月)－2020年3月31日(火)(3ヶ月以内)
応募資格：
・ビジュアル・アーツ分野の新進芸術家または研究者で、京都に滞在し制作・調査研究などを行う理由が明確な方。
国籍不問
支援内容：
・滞在期間中(3ヶ月以内)の宿泊場所の提供
・制作場所の提供
・居住地から関西国際空港または大阪国際空港までの往復航空券
・制作費として1件につき(個人・グループ問わず)10万円(内税)の補助

【**関連企画**】
奥野美和による「解：体ワークショップ」
独自のダンスメソッド「自由になるための解体された身体」を体験。
日時：6月7日(木)
〈昼の部〉14:00－17:00
〈夜の部〉18:30－21:30
会場：フリースペース
料金：各回2,500円
定員：各回20名(先着順/要事前申込)
主催・申込・問合せ：N///K
E-mail：nk.info.jp@gmail.com

制作支援事業

ソノノチ2018『いられずの豆』
店主のいないカフェに集った4人の男女の物語。コミュニティカフェの姿を描きます。
日時：4月15日(日)、29日(日)、30日(月・祝)12:00/14:00
24日(火)、25日(水)18:00/20:00
会場：Social Kitchen 1F Café(上京区)
料金：前売2,500円(事前決済)
予約・当日精算：3,000円
応援チケット：5,000円(前売りのみ・グッズ付き)
問合せ：ソノノチ
TEL：050-5318-7717(制作)
E-mail：info@sononochi.com

※その他のチケット窓口取扱公演：主催事業および🎧印の共催事業・制作支援事業

チケットぴあで取扱いのチケットは、電話、びあ窓口、コンビニエンスストア(セブン・イレブン、サークルKサンクス)の専用端末などからご利用いただけます。
WEB：http://t.pia.co.jp
TEL：0570-02-9999

※その他のチケット窓口取扱公演：主催事業および🎧印の共催事業・制作支援事業

※入場無料・事前申込不要

※入場無料・事前申込不要

※入場無料・事前申込不要

※入場無料・事前申込不要

※入場無料・事前申込不要

※入場無料・事前申込不要

募集要項および応募用紙は、同センターにて配布中。ウェブサイトからもダウンロード可。
応募方法：応募用紙に必要事項を記入の上、必要書類とともに京都芸術センターまで送付または持参(持参の場合は締切日の20時まで)。

※入場無料・事前申込不要

KYOTO EXPERIMENT
京都国際舞台芸術祭 2018 インターンシップ募集
京都発の国際舞台芸術祭「KYOTO EXPERIMENT」の運営事務局でのインターンシップを募集します。
研修期間：2018年6月－11月
6ヶ月にわたり、舞台芸術祭の準備から終了までの運営等に携わる長期実践型プログラムです。さらに8－10月は事務局研修と平行してコース別の実践研修を行います。
研修コース：A. 事務局運営コース
B. 舞台技術コース
C. 広報宣伝コース

応募方法・応募先：公式ウェブサイト(https://kyoto-ex.jp)よりご確認の上ご応募ください
締切：4月22日(日)(消印有効)
問合せ：KYOTO EXPERIMENT事務局
TEL：075-213-5839
(受付時間：平日11:00-17:00)
E-mail：info@kyoto-ex.jp
※会場受付・監視・アテンド等のサポートスタッフ(ボランティア)、および短期インターンシップは、6月より別途募集開始予定

REVIEW

伝統

人形が醸す情、命の炎に魅入る

宇都宮ゆう子

『文楽 京都公演2018』

3月22日(木)~24日(土)

京都府立文化芸術会館(京都市上京区)

『京都文楽』は正午に開演し、14時過ぎには終了という、「あつという間」でありながら、濃密なひと時だった。

文楽は、歴史上の話をテーマにした「時代物」と、市井の事件を扱った「世話物」、舞踊の要素が強い「景事」の大きく3つの演目に分けられるが、近松門左衛門を作者に持つこの『曾根崎心中』は、世話物の発端ともなった、世話物の代表格といえよう。

相愛でありながら添い遂げられない運命にある2人が、死を選ぶことで永遠に結ばれようとする「心中」は、甘美な事件だ。

主人公である醤油屋平野屋の手代である徳兵衛は、堂島新地、天満屋の遊女お初と愛し合う仲である。徳兵衛は店の主人でもあるおじから、妻の姪との縁談をもちかけられるが、お初が存在があるため、断り続けている。しかしある時、郷里の継母が勝手に縁談を承諾し、持参金まで受け取っていたことが判明する。

徳兵衛は改めて主人に、結婚の意志がないことを告げるも激怒され、「持参金を返金し、大坂を出るよう」迫られる。徳兵衛は「それでも結婚はできない」と、継母から持参金を取り戻すのだが、親友の油屋九平次に窮状を訴えられ、貸してしまう。

しかしこれは九平次の謀略だった。徳兵衛は九平次に金を騙しとられたばかりか、詐欺師扱いをされ、窮

関西圏の公演・展覧会について、
若手レビューが月替りで執筆します。

地に追い込まれる。
物語の見どころはやはり、互いの想いを確かめ、共に「死のう」と誓いあう「天満屋の段」だろう。

九平次からの詐欺被害が発覚した夜、お初は天満屋に忍んできた徳兵衛は、お初の打掛けに隠れ縁の下に身を潜める。そこへやってきたのが九平次だ。お初と居合わせる遊女らに対し、徳兵衛の「悪事」を言い連ね、お初に言い寄る。

この九平次を演じる、竹本千歳太夫の口上の憎々しいこと！ 弱弱しくも毅然と反論をするお初の口上の色っぽいこと！ 迫真の口上に、息をするのも忘れる。

「太夫はピッチャー、三味線はキャッチャー、人形は外野手」と、しばしばたとえられるが、太夫から目が離せなくなるほどの白熱の演技なのだが、対する人形遣いのほうも鉄壁の演技で魅せる。「死ぬる覚悟が知りたい」というお初、「自害する」と、お初の足にすがりつき自らの喉を当てる徳兵衛のやり取りが実に艶やかで、官能的だ。

そして舞台は「この世の名残り、夜も名残り」の、「天神森の段」へ。静かな場面だ。しかしラスト、脇差しを刺し抜きながら息を引き取るシーンは、2人の最期の命の炎が燃えあがると同時に、「魂が抜けていく」のが感じられ、やはり、涙した。

(3月23日12:00の回を観劇)

うつのみや ゆうこ/フリーライター、編集者 ●3月初旬に編集協力をした『ホンこわ!あなたの後ろの本当は怖い場所』(野宮麻未著、理論社刊)が発売されました。小学生向けの怪談本です。



ダンス

変転する身体 ゆざわさな

ダンスボックス・ソロダンス・シリーズ vol.2

寺田みさこ『三部作』

1月19日(金)~21日(日)

ArtTheater dB KOBE(神戸市長田区)

本公演では、チョン・ヨンドウ、塚原悠也、マルセロ・エヴェリンの3名の振付家によって振付された、寺田みさこのソロダンスが発表された。

チョン・ヨンドウの作品での寺田は、ワンピースにジャケット姿。ワンピースの裾やジャケットの袖口から真っ白な身体がのぞく。照明を受けた身体は白く光る陶器のようだ。ムーブメントに伴って翻るワンピースは、まるで蝶が羽を広げたように大きく広がり、その衣はムーブメントと同期して身体の一部のようにさえ見えた。寺田の都会的で洗練された佇まいと、時折見せるコケティッシュな表情、コミカルな動きのコントラストに目を見張った。

チョン・ヨンドウ作品でまざまざと見せられた身体は、塚原悠也の作品では稽古着にすっぽり覆い隠されていた。おまけに、口元を見ればクチャクチャと音を鳴らしながらガムを噛んでいる。寺田は踊りらしい踊りは一切せずに、組み立てられていく木の足場の上を、バランスを取りながらひたすらに歩く。ただ歩き、ただ立っている、そんなごく単純で日常的な動きでも、緻密で美しく見える寺田の身体性に息を飲んだ。一定時間、舞台上での出来事を眺めていると、どうやら寺田は噛んでいるガムを運ぶ役目を持っていることに気づく。一歩、また一歩と進むにつれて、口の中のガムも噛まれ、



マルセロ・エヴェリン振付作品 写真：岩本順平

練られていく。観客は、実は寺田の大きな口の中に放り込まれ、まるで噛んで練られて、空間に巻き込まれているのではないかと、という感覚を覚えた。

マルセロ・エヴェリンの作品で、寺田はまた別の顔を見せた。獣にも髪の毛のようにも見える、黒い衣装。片手でぎりぎり持つことができる大きさの岩を持っていた。その岩を身体に寄せて隠すようにしてみたり、引き離して差し出してみたり、自分と他者の間にある空間を転がすように岩を動かしていた。岩は寺田の手の中で重さや硬さを変えていく。ずっしりとした重さを持つときもあれば、カラカラと音が聞こえてきそうなほどに中身が軽いときもある。寺田の動きが、手のひらから岩に伝わり、岩の質感を変えてしまうのだ。硬質なはずの岩も、身体の一部として吸収する寺田の身体の強さが光った。

寺田は、3人の振付家によるソロダンスを見事に踊り分け、全ての作品で違う顔を見せた。それだけでなく、どの作品でも身体の強さと圧倒的な美しさを惜しみなく見せてくれた。幾通りにも質感を変える身体と、その身体から織りなされるムーブメントに酔う、贅沢な時間であった。

(1月20日19:00の回を鑑賞)

ゆざわ さな/ダンサー、ダンス講師、The bomb/舞台企画back☆pack主宰 ●神戸大学大学院人間発達環境学研究所博士課程への進学が決まりました。多角的にダンスをみて、伝えていけるよう、より一層精進いたします!!

美術

呼吸のダイアログ

平田剛志

ALLNIGHT HAPS 2017後期

『接触の運用』#4 柳瀬安里

3月6日(火)~3月26日(月)

HAPSオフィス1F(京都市東山区)

夜の路上、白いカーテンをめくると窓越しに二人の男女が向かい合いキスを交わしている映像が見える。ヘッドホンから時おり聞こえる息遣いは、プライベートな行為を覗き見するようだ。だが、画面を見続けると二人の行為は人工呼吸のように息苦しさから何度も中断

をしては目をつぶり、再び作業のように肉体をぶつけ合う。

高橋耕平企画による『接触の運用』#4に展示された柳瀬安里の映像作品《息の交換》である。本作は、2つの作品に基づいている。マリナー・アブラモヴィッチとウーライが互いの吐いた息を吸い込み、酸素の依存関係をパフォーマンスとして行った代表作《Breathing in, Breathing out》(1977)、美術と愛の関係性を主題に菊池和見・にしなつみによる再演《吸入/排出》(2014)である。この2作はともにカップルであるアーティストによる愛のキスが「死のキス」という致命的な行為へ転じる位相をあらわにするパフォーマンスだった。

対して、柳瀬は菊池・にしなが用いた「愛」という言葉に触発されて本作を再演した。だが、過去2作と異なり、一心同体となるはずの二人の「呼吸」は不一致となり、中断を繰り返す。その理由は、男女の口吻に潜む「愛」の不在である。本パフォーマンスは協働性が重要なコンセプトだが、作家解説によれば協働する男性はパートナーではなく、発表も柳瀬名義でされている。つまり、柳瀬は現代美術史上に名高いパフォーマンスの再演に

あたって「愛」を取り去ったのだ。

これほど密接に接触しながら、距離がある二人の関係。柳瀬は根源的な男女の接触という領域へ大胆に踏み込んだ。過去2作の「愛」の遂行に対して、柳瀬はパートナーに「他者」を設定することで、パフォーマンスを逸脱、破綻させ愛の不在を印象づける。画面に映る行為の協働性に対し、肉体と精神の乖離を伝達する映像に息を呑む。

柳瀬はこれまでの作品でも見えない「境界」を視覚化してきた。国会議事堂周辺のデモの中で路上にチョークや指で線を引き、沖繩高江のヘリパッド建設工事の現場を歩きながら戯曲を暗唱する行為によって、日常と政治、賛成と反対、当事者と非当事者の境界線と差異をあぶり出してきた。ヒロイックなまでに身一つで政治的状況に飛び込む柳瀬の大胆で危険を伴うパフォーマンスは、場所に身体が介入することで見えない「境界」を現わす。

本作においても呼吸の肉体関係を通じて、精神と肉体、生と死、プライベートとパブリックの見えない境界と限界、差異があらわれる。本作が過去のパフォー

マンスとは異なり身体の境界である皮膚を晒したのは、「境界」を見せるためだっただろう。身体と心の距離は映像に何を映し、何を映さないのか。観者の呼吸を乱す「対話」がここにある。

ひらた たけし/美術批評 ●アキ・カウリスマキ監督の映画「希望のかなた」を京都みなみ会館で観ました。難民という他者との接触からはじまる物語は、失われつつある家族的愛情と勇氣、希望を描く名作でした。



撮影：松見拓也

EVENT CALENDAR 5/1 ▶ 5/31

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
tue	wed	thu	fri	sat	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat	sun	mon	tue	wed	thu
『ニューミュージーション-変・進・深化』展(4/14-5/27)																														
											●『ニューミュージーション-変・進・深化』展 ●[関連企画]ワークショップ「けしきの上をえんびついで泳いでみる」																●『ニューミュージーション-変・進・深化』展 ●[関連企画]クロージング・イベント「ルッペルトの頭の中身」			
											●みみきプログラム#2 ●素謡の会「うたいろあはせ」第1回																			
											●京都国際ダンスワークショップフェスティバル2018(4/20-5/6)																			
●京都国際ダンスワークショップフェスティバル2018 ●[トーク]マルセロ・エヴェリン											●京都国際ダンスワークショップフェスティバル2018 ●[ショーイング]チョン・ヨンドウ																			
											●[明倫WS]BRDG ●「じかに絵をかこう -TIME:PAINTING 光のワークショップ」																			
											●[KACセクション]「Blind pieceプロジェクト」 ●ムーブメントリサーチ ●パフォーマンスワークショップ																			
											●[明倫WS]空降る船玉社 ●「演劇の衣裳・小道具の基礎を学ぶ」																			
											●[KACセクション] ...1[アマリイチ]Punk・tuatē[パンク・チュエイト]																			

図書室休室日：5月31日(木)



継ぐこと・伝えること60『沓占式-下駄占』の様子 Photo by Inoue Yoshikazu

開館以来様々な伝統芸能を紹介してきた「継ぐこと・伝えること」。昨年度は、手法を変え、茂山童司(大蔵流狂言師)を中心に、敷居が高く保守的に思われがちな「伝統」のイメージを更新する「沓占式プロジェクト」を実施しました。

2018年3月4日(日)に実施した公演『沓占式-下駄占』は、大きな反響を呼びました。伝統を継承するプロセスの解体を試みた本プロジェクトを振り返り、それぞれの立場の感想や見解を共有し、今後に生かすために「振り返りミーティング」を実施します。

本プロジェクトは、構成・演出の茂山童司と、演出助手として村川拓也(演出家)、伝統文化の思想や歴史のアドバイザーとして井上治(京都造形芸術大学准教授)でチームを構成しました。次に、「伝統とはなにか」という大きな問いへのアプローチとして、「芸能は継承することによって伝統芸能になりうるか」と「伝統であるという思いこみが鑑賞者にどのように影響するか」という2つの問いを設定しました。そして、解を導き出す方法として、①架空の伝統芸能「沓占式」を創作し、②12名が代々継承した後(継承実践)、③公演で最後の継承者による実演とディスカッションを行いました。公演は、実演の後に①②の過程を説明することで、プロジェクトの全体像を知る前後でどのように見方が変わったかを問いかける構成で実施しました。

公演後のディスカッションでは、芸能の創作について、芸能の多くにはそのはじまりや歴史の変容で共通する部分があることを紹介し、井上は「伝統あるものとしてはじめから作られたものも多い」と話しました。茂山は、継承実践を観察するうちに、自分たちで創作したにも関わらず、沓占式が本当に昔から継承されてきたものであるように感じる事が何度もあり驚い

たと言います。同じように感じた村川は、伝統芸能がなぜ継承され続けているのかについて「継承とは、人間はこうあるべき、こう生きるべき、世界はこうあるべき、という法のようなものを後世に伝えていく行為なのではないか」と考察しました。さらに、司会の小林昌廣(情報技術芸術大学院大学教授)は、「実演中、演者に返礼をする観客が数名いたことからわかるように、ここに非常に儀礼的な空間が生じていた。これが連続的に時間の地層の中で積み重なると、いつの間にか誰かが伝統と呼ぶようになるのかもしれない」と指摘しました。

沓占式の創作・継承・公演(観客による芸能の評価)により、伝統芸能を再構築することで、伝統とは何かを問いかける本プロジェクト。この振り返りミーティングでは、公演に至る過程と、公演での観客の反応などから得られた課題を共有、考察します。公演をご覧になった方だけでなく、どなたでも傍聴いただけますので、ぜひお越しください。

今回は公演をプロジェクトの一環として捉え、考察の対象が観客の視線であることから、開かれた場で議論が展開されるべきと考えました。イメージで語られる伝統の姿に正解はなくとも、今回確認した一連の事象についてのまとめを試みます。 堀越芽生子(アートコーディネーター)

KAC Performing Arts Program 2017 / Traditional Performance

継ぐこと・伝えること60 「沓占式プロジェクト」振り返りミーティング

日時：4月27日(金)11:00-13:00
会場：ミーティングルーム2
※入場無料・要事前申込・入退場自由
※イベント情報(P2)もご覧ください

TOPIC 02

KAC Performing Arts Program 2017 / Traditional Performance

継ぐこと・伝えること60

「沓占式プロジェクト」振り返りミーティング

公演：3月4日(日)
京都芸術センター 講堂

TOPIC 03

報告 伝統芸能文化創生プロジェクト

『三味線三昧』

2月4日(日)
京都芸術センター 講堂

日本を代表する弦楽器である三味線に係る技術の持ち主が一堂に集い、三味線を総合的に紹介しました。

第一部の道具製作の紹介では、実際の作業道具や紹介映像を用いて各工程の解説がなされました。まず、生糸を紡ぐ「ダルマ」と呼ばれる繰り製糸機を用いた作業で原糸が作られます。続いて、撚糸、染色、糊煮込、乾燥などの工程を経て絃が製造されます。胴の部分については、紅木(こうぎ)という原材料や猫の皮の特性等についての説明を交えながら、皮張りの作業を公開しました。

続く第二部では、柳川三味線、義太夫三味線、長唄三味線、新内節三味線、津軽三味線の演奏と共に、それぞれの音楽の特徴について解説がなされました。最後の「お題三味線」では、「春」というお題からそれぞれが連想する曲を演奏し、会場は大いに盛り上がりました。材料から楽器が作られる工程を知り、それを使って演奏される各音楽の違いを聴き比べることができる貴重な機会となりました。

伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(TARO)について
TAROは、「伝統芸能文化センター」に必要とされる機能の確保・強化に取り組む事務局として2017年に京都芸術センター内に設置されました。伝統芸能の継承や保存、用具・用品とその材料の確保、普及・創造・発信活動など、伝統芸能文化の総合的な活性化の観点から、ネットワークの構築や基礎調査等を進めています。



型形のデモンストレーションの様子

第一部 道具製作の紹介

- 原糸製造 佃三恵子(木之本町邦楽器原糸製造保存会 [邦楽器原糸製造 選定保存技術保存団体])
- 糸製作 小篠敏之(株式会社鳥羽屋 代表取締役、邦楽器糸製作 選定保存技術保持者)
- 棹製作修理 今井伸治(今井三絃店五代目)

第二部 演奏&トーク

- 長唄三味線 岸屋勝七郎
- 柳川三味線 林美音子
- 新内節三味線 新内枝幸太夫
- 義太夫三味線 鶴澤清志郎
- 津軽三味線 柴田雅人

TOPIC 04

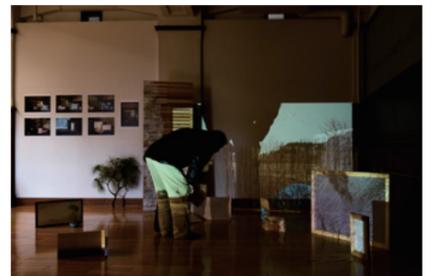
アーティスト・イン・レジデンス プログラム 2019

公募プログラム

ビジュアル・アーツ部門

滞在アーティストの募集を開始!

京都芸術センターのアーティスト・イン・レジデンスプログラムでは、異なる文化に触れることで新しい芸術表現を生み出す新進のアーティストや芸術分野の研究者の滞在制作を支援します。ビジュアル・アーツとパフォーマンス・アーツの分野から参加者を隔年で募集しており、2019年度はビジュアル・アーツ分野が対象です。昨年(パフォーマンス・アーツ部門)の応募件数は330件、一昨年は173件(ビジュアル・アーツ部門)からそれぞれ1名ずつの選出と年々狭き門となりつつあるのが悩ましいところです。京都芸術センターとともに新しい表現に挑戦する意欲的なアーティストを歓迎します!



2017年度公募プログラム 滞在アーティスト：キム・ジェウォン(韓国) オープンスタジオの様子 photo by Kim Song-Gi

昨年(パフォーマンス・アーツ部門)の応募件数は330件、一昨年は173件(ビジュアル・アーツ部門)からそれぞれ1名ずつの選出と年々狭き門となりつつあるのが悩ましいところです。京都芸術センターとともに新しい表現に挑戦する意欲的なアーティストを歓迎します!

昨年(パフォーマンス・アーツ部門)の応募件数は330件、一昨年は173件(ビジュアル・アーツ部門)からそれぞれ1名ずつの選出と年々狭き門となりつつあるのが悩ましいところです。京都芸術センターとともに新しい表現に挑戦する意欲的なアーティストを歓迎します!

アーティスト・イン・レジデンス プログラム 2019

公募プログラム ビジュアル・アーツ部門

滞在期間：2019年4月1日(月)～2020年3月31日(火)から最大3ヶ月以内
応募受付期間：4月1日(日)～6月30日(土)(必着)
※イベント情報(P2)もご覧ください。

Since 1971
MAEDA'S COFFEE
KYOTO ART CENTER 1F
MUROMACHI, TAKOYAKUSHI
NAKAGYOKU, KYOTO
TEL.075-221-2224
10:00~21:30 everyday

夏休み企画展『感覚のあそび場
—岩崎貴宏×久門剛史—』
2016年7月26日～9月11日
展覧会カタログ 定価 500円(税込)
京都芸術センター窓口、もしくは下記ウェブサイトよりご注文いただけます。
<http://www.kac.or.jp/shop/>

京都芸術センター



交通案内
○市営地下鉄烏丸線「四條」駅/
阪急京都線「烏丸」駅22番出口・24番出口より徒歩5分。
○市バス「四條烏丸」下車、徒歩5分。
開館時間
○ギャラリー・図書室・情報コーナー 10:00-20:00
談話室・チケット窓口 10:00-21:30
○カフェ 10:00-21:30
○制作室、事務室 10:00-22:00
休館日
12月28日から1月4日
〒604-8156
京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町546-2
TEL : 075-213-1000 FAX : 075-213-1004
E-mail : info@kac.or.jp URL : http://www.kac.or.jp/
twitter : @Kyoto_artcenter
facebook : http://www.facebook.com/kyotoartcenter

